

新成人意見発表

本日は、私たち成人のために式典を開催していただき誠にありがとうございます。また、町長をはじめとする来賓の皆様、そして小学校や中学校でお世話になった先生方に成人を代表して御礼を申し上げます。

さて、我々は社会の中ではもう「成人」であります。「成人になる」ということは一体どういうことなのかと最近私は深く考えさせられます。

私は、「成人になる」ということは、「次世代に対して責任を持つ」ことであると考えます。この世界は、深い因果によって結ばれています。その点で我々は過去、そして未来と繋がりをもつのです。我々の知らぬ過去のことでも、我々は生まれた瞬間からその責任の一端を背負って生きているのです。我々が現在行っていることの結果というものは私たちが認識している現在という点においては目に見えません。それは後になってから、つまり未来の時点で発現します。その結果というものの多くは我々が背負うものではありません。それは我々の「次の世代」が背負うものです。その世代のための基礎を作り、世代を引き継ぐまでが我々「大人」の役目であるのです。決して自分一人だけに対して責任を負うことが「大人になる」ことではありません。私たち成人はここに永く責任ある成人になることを誓います。

また、大人になるということは徹底した「権利の行使者」そして「権利の擁護者」でなければならないとも私は考えます。戦後民主主義の牽引者となった丸山真男は、かの有名な『「である」ことと「する」こと』の中でこう言いました。「自由は置き物のようにそこにあるのではなく、現実の行使によってだけ守られる。言いかえれば日々自由になろうとすることによって、はじめて自由でありうるということなのです。」と。

自明のことと思いますが、私たちの日常は当たり前ではありません。真の自由、それを享受し続けるためにはそれを維持するだけの努力が必要なのです。ですが、自由はとても脆く、傷つきやすいものです。私たち成人は自由を享受するためにそれを守り、さらに発展させていくことを誓います。

そして、私たちが今日に至るまで生活できたことは決して当然のことではありません。「成人」は、自身の安泰だけでなく、恵まれぬ他者に対しても祈り、寄り添うことのできるものだと考えます。人と人との関わりが希薄に感じられつつある時代だからこそ、他者との連帯が必要であります。私たち成人は人と人とを結び、「あたたかい」社会を構築することを誓います。

最後になりますが、私たちを今日に至るまで支えてくださった全ての方々に感謝を申し上げ、新成人代表の挨拶とさせていただきます。

令和6年1月7日

新成人代表 野田始榮